

安全データシート

SDS No.1021-33042

作成日 2000年 3月23日
改訂日 2025年 2月27日 1/6頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Nonylphenol
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1021-33042
整理番号(SDS No.) : 1021-33042
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険・有害性の要約

GHS分類 : 急性毒性(経口) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1
生殖毒性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2 (泌尿器系)
水生環境有害性 短期(急性) : 区分1
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分1

GHSラベル要素 :

絵表示又はシンボル



注意喚起語 :

危険有害性情報 :

H302 飲み込むと有害
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による泌尿器系の障害のおそれ
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

[安全対策]

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急措置]

P301+P312 飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。
P303+P361+P353 皮膚または髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚をシャワーで洗うこと。
P304+P340 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の手当てを受けること。
P310 直ちに医師に連絡すること。
P314 気分が悪いときは医師の手当てを受けること。
P330 口をすすぐこと。
P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P391	漏洩物を回収すること。
[保管]	:
P403+P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。
[廃棄]	:
P501	内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名(又は一般名)	: ノニルフェノール
別名	: --
濃度	: 99%
	注記：これらの値は製品規格値ではありません。
化学式	: C ₁₅ H ₂₄ O
分子量	: 220.35
官報公示整理番号	: 化審法：(3)-503
	安衛法：--
CAS RN	: 25154-52-3

4 応急処置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 石鹸と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受けること。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受ける。眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぎ、直ちに医師の手当てを受けること。無理に吐かせないこと。
暴露した場合	: 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
急性症状および遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 蒸気吸入により、一時的な呼吸器刺激性、めまい、衰弱、疲労、悪寒や頭痛などの症状を生じる。接触により眼や皮膚の発赤、痛み、皮膚の乾燥などが生じる。誤飲により腹痛やめまいが生じる。
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	: 棒状水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。消火後再び発火するおそれがある。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込めおよび浄化の方法および機材	: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除く。密閉できる空容器に集めて適切に処分する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスを発生させない。
使用後は容器を適切に廃棄すること。
吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。

保管

- 適切な保管条件 : 保管場所で使用する電気機器は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。
容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。
- 避けるべき保管条件 : 火花、高温、スパーク、混触危険物質との接触を避ける。
- 技術的対策 : 換気の良い場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。火気厳禁。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、強塩基、強酸、火源の近くに保管しない。
- 安全な容器包装材料 : ガラス等

8 ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

- 管理濃度 作業環境評価基準 : -
濃度基準値
八時間濃度基準値 : -
短時間濃度基準値 : -

- 許容濃度
日本産業衛生学会 : -
ACGIH TLV : -

保護具

- 呼吸器の保護具 : 防毒マスク。日本産業規格(JIS T8152)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。
- 手の保護具 : 不浸透性保護手袋
- 眼の保護具 : 保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣・保護長靴
- 適切な衛生対策 : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 無色～薄黄色
- 臭い : 弱いフェノール類臭
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点または初留点 : 293~297℃
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界 : データなし
- 引火点 : 149℃
- 自然発火点 : 370℃
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : データなし
- 溶媒に対する溶解性 : データなし

n-オクタノール／水分配係数

log Po/w	: データなし
蒸気圧	: 7.59
密度及び/または相対密度	: 0.95 g/cm ³
相対ガス密度(空気=1)	: データなし
粒子特性	: データなし

1 0 安定性及び反応性

反応性	: 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性	: 適切な保管条件下では安定。光によって変質するおそれがある。
危険有害反応可能性	: 適切な保管条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、熱、高温、混触危険物質との接触。
混触危険物質	: 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素など

1 1 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラットLD50 = 1,200~2,400 mg/kg (雄、EU-RAR (2002))。
急性毒性(経皮)	: ウサギLD50 = 2,031 mg/kg (EU-RAR (2002)、NITE初期リスク評価書 (2005))
急性毒性(吸入：蒸気)	: データ不足
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	: データ不足

皮膚腐食性/刺激性 : ウサギの皮膚刺激性試験 (OECD TG 404の3試験、詳細不明な1試験) において、4時間適用で全層壊死、潰瘍形成などの腐食性を示唆する変化が認められ、また、その内の2試験では3分から1時間適用群が設けられ、軽度から重度の刺激性がみられたが、腐食性を示唆する壊死等は認められなかったと報告されている (NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2002))。その他、ウサギの皮膚刺激性試験 (OECD TG 404の2試験、詳細不明な1試験) においても、中等度～重度の刺激性が認められたとの報告がある (NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2002)、CEPA (2001))。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: ウサギの眼刺激性試験 (OECD TG 405、3試験) において、結膜発赤 (スコア3)、角膜混濁 (スコア3又は4) がみられ、重度の刺激性が報告されている (EU-RAR (2002))。その他、ウサギの眼刺激性試験 (3試験) において、詳細は不明であるが中等度～重度の刺激性が認められたと報告されている (NITE初期リスク評価書 (2005)、CEPA (2001))。

呼吸器感作性 : データ不足

皮膚感作性 : モルモットを用いた皮膚感作性試験 (OECD TG 406を含むマキシマイゼーション法、3試験) において、本物質に皮膚感作性は認められなかった (NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2002)、SIAP (2001))。その他、モルモットの皮膚感作性試験においても、試験の詳細は不明であるが陰性であるとの記述がある (NITE初期リスク評価書 (2005))。

生殖細胞変異原性 : in vivoでは、マウスの骨髄細胞を用いる小核試験で陰性 (EU-RAR (2002))、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性である (NITE初期リスク評価書 (2005)、厚生省既存化学物質毒性データベース (Access on October 2016)、EU-RAR (2002))。

発がん性 : データ不足

生殖毒性 : ラットを用いた混餌投与による3世代試験において、F0～F2親動物に一般毒性影響 (体重増加抑制、腎臓相対重量減少、腎尿細管の変性) がみられる用量 (50～160 mg/kg/day) で、F1～F3児動物に膈開口の早期化、子宮重量増加、卵巣重量減少、性周期の延長 (F1、F2)、精巣上体精子濃度の低下、精巣精子細胞の減少がみられた (EU-RAR (2002))。また、ラット2世代試験でもF0、F1親動物に腎臓及び肝臓重量増加 (雄)、卵巣重量減少 (雌) がみられる用量 (50 mg/kg/day) で、F1児動物の生存率低下、膈開口の早期化、着床数の減少及びF2生存児数の減少がみられた (NITE初期リスク評価書 (2005)、環境省リスク評価書第2巻 (2003))。以上、ラットを用いた2世代及び3世代試験において、概ね親動物に一般毒性影響のみみられる用量で、児動物に性機能・生殖器官への影響や生存率低下など次世代への影響がみられている。

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)

: ヒトでは本物質が呼吸器系に対して刺激性を示すとの記載 (NITE初期リスク評価書 (2005)) 及び本物質の高濃度の蒸気へのばく露で眼と呼吸器系に軽微な痛みを生じるとの記載がある (HSDB (Access on October 2016))。

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)

: ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた強制経口投与による28日間反復投与毒性試験において、区分2相当の250 mg/kg/day (90日間換算値:77.8 mg/kg/day) で肝臓重量増加、小葉中心性肝細胞肥大、腎臓の重量増加、腎臓の皮髄境界部の近位尿細管の好塩基性化と単細胞壊死、間質の細胞浸潤及び円柱、集合管の好塩基性化と拡張、腎盂粘膜の単純性過形成と腎盂拡張、膀胱の移行上皮の単純性過形成がみられた (厚労省既存化学物質毒性データベース (Access on October 2016)、NITE初期リスク評価書 (2005)、環境省リスク評価第2巻 (2003))。

誤えん有害性

: データ不足

1 2 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)

: 区分1×毒性乗率が濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。

(ノニルフェノール)

: 甲殻類(ヨコエビ科)の96時間EC50=0.0127mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2004)。

水生環境有害性 長期(慢性)

: 区分1×毒性乗率が1000%であり、濃度限界(25%)以上のため、区分1に該当。

(ノニルフェノール)

: 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いものの(BCF=330(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない。

生態毒性

: データなし

残留性・分解性

: データなし

生態蓄積性

: データなし

土壌中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: 本製品はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装

: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

: IMOの規定に従う。

UN No.

: 3145

Proper Shipping Name

: ALKYLPHENOLS, LIQUID, N.O.S.

Class

: 8

Packing Group

: II

Marine Pollutant

: Not Applicable

航空規制情報

: ICAO/IATAの規定に従う。

UN No.

: 3145

Proper Shipping Name

: Alkylphenols, liquid, n.o.s.

Class

: 8

Packing Group

: II

国内規制

陸上規制

: 国内法令の規定に従う。

海上規制

: 船舶安全法の規定に従う。

国連番号

: 3145

品名

: アルキルフェノール類(液体)(ノニルフェノール)

クラス

: 8

容器等級

: II

海洋汚染物質

: 非該当

航空規制情報

: 航空法の規制に従う。

UN No.

: 3145

品名

: アルキルフェノール類(液体)(ノニルフェノール)

クラス

: 8

容器等級

: II

緊急時応急措置指針番号

: 153

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 劇物(指定令第2条) No.78の2(ノニルフェノール)
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 施行令第18条第2号～第3号別表第2 No.1519(ノニルフェノール) 【令和7年4月1日以降 該当】 皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2)
化管法	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) No.320(ノニルフェノール)
化審法	: 既存物質
消防法	: 危険物第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)
船舶安全法(危規則)	: 腐食性物質(危機則第3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(X類物質)(施行令別表第1)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申)
水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
土壤汚染対策法	: 非該当
廃掃法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第64版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。